

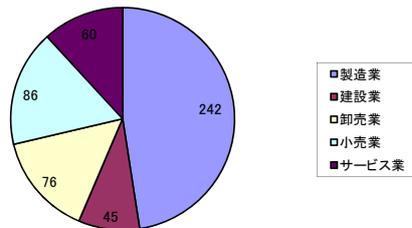
# 景気動向

業況は悪化。  
先行きは製造業で横ばい、非製造業はわずかに悪化の見通し。

- 調査時点 平成24年7月調査(24年6月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 509社(回答率:63.6%)  
(製造業242社、建設業45社、卸売業76社、  
小売業86社、サービス業60社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	242
建設業	45
卸売業	76
小売業	86
サービス業	60



## <全産業>

全産業の業況DI(▲12.0)は、前回(12.1)に比べて悪化を示した。  
業種別では製造業の業況DI(▲21.9)は、前回(6.0)に比べて▲27.9ポイント悪化した。  
建設業の業況DI(22.3)、小売業の業況DI(▲7.0)、サービス業の業況DI(▲10.0)はそれぞれ前回に比べて悪化、  
卸売業の業況DI(▲7.9)はわずかに悪化を示した。  
各業種からは、原発事故による風評被害の影響が続き、業況が悪化しているという声が多く聞かれた。  
また、「復興関連の仕事は多いが、人材不足」といった声も複数あった。

3か月先見通しは、製造業で横ばい、非製造業はわずかに悪化を見通している。

### ■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
6月末時点	-12.0	-9.1	-17.1	-2.8
3月末時点	12.1	15.2	0.0	7.0
前回比	-24.1	-24.3	-17.1	-9.8

### ■全産業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	23.2	40.4
悪化	35.2	28.3
DI値	-12.0	12.1
前回比	-24.1	31.1

### ■3月末時点からみた全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	11.0
悪化	28.7
DI値	-17.7

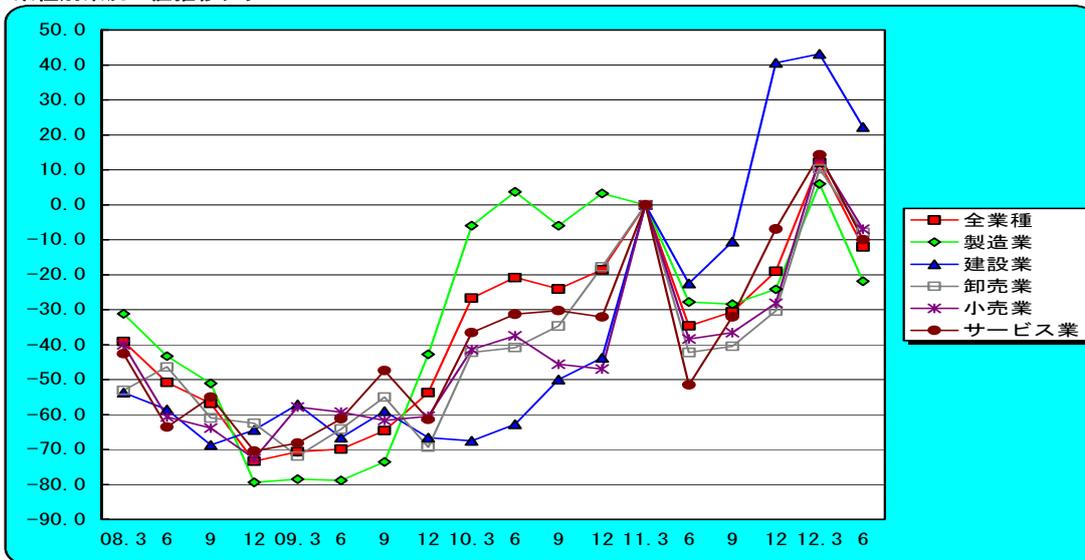
### ■製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	20.7	37.6
悪化	42.6	31.6
DI値	-21.9	6.0
前回比	-27.9	30.2

### ■非製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	25.5	43.0
悪化	28.5	25.1
DI値	-3.0	17.9
前回比	-20.9	32.2

■業種別業況DI値推移グラフ



＜製造業＞

業況DI値	
今回	-21.9
先行き	-19.9
前回比	-27.9

対象企業	378
回答企業	242

業況・売上で悪化、採算、資金繰りでわずかに悪化を示した。業種別にみると業況は「ニット」で大幅改善、「織物」で改善、「縫製」「鉄鋼・非鉄」でわずかに改善、「プラスチック」で横ばいを示した一方で、「食料品」「精密機器」でわずかに悪化、「木材・木製品」「印刷」「一般機械」「電気機器」で悪化、「酒造」「窯業・土石」「金属」「輸送用機器」で大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算で横ばい、資金繰りでわずかに悪化を見通している。

業種別にみると業況は「織物」で大幅改善、「窯業・土石」で改善、「食料品」「酒造」「鉄鋼・非鉄」「電気機器」「精密機器」はわずかに改善、「金属」「一般機械」は横ばいを見通している一方で、「縫製」「木材・木製品」「印刷」「プラスチック」はわずかに悪化、「ニット」「輸送用機器」は悪化を見通している。

「先行き不透明」「円高が落ち着いたので今後に期待」「昨年震災後、受注量の激減により最悪の事態となっている」といった声の他に、「国内でものづくりが出来なくなるのではないかと思う」また「復興関連の仕事が多いが、人手不足で困っている」といった声もあった。

自由意見

製造業

- 風評被害の根絶。【食料品】
- 資金繰りは助成金等が受けられたので前年より良化しているが、風評被害の影響で今後の売上の見通しは暗い。【食料品】
- 風評被害の影響により、復興企画の減少が大きく目立つ。【食料品】
- 福島県産、東北産品の風評被害の影響がいよいよ本格的になって参りました。限界点です。【食料品】
- 昨年7月の水害の影響もあり、メインのヒメマス寿司のヒメマスが使えないため、悪化している。【食料品】
- 原材料の値上げがほぼすべての仕入れで上昇、一方で原発事故の風評被害で売上が伸びず苦労しています。【酒造】
- 前年は震災特需で4月5月6月は好調だった。今後は、商品開発や嗜好に合った品質の追求等、更なる努力が必要。併せて、景気刺激策等が一層望まれる。【酒造】
- 5月～6月は端境期で例年通り受注に苦労したが、6月後半は少し動きだした。秋冬物は例年通りを予想している。【縫製】
- 震災の影響があった前年に比べると良化しているが、県内の家具の購入については、買い控えが多く見られる。【木材・木製品】
- 復興支援に関する企画商品の受注が、急激に落ち込んでいる。【木材・木製品】
- 原発事故後、若者は流出し、風評被害の影響で受注は減少している。【木材・木製品】
- 先行き不透明。【木材・木製品】
- 受注減少がひどく、会社存亡の危機です。【印刷】
- 社会保険料等の負担増加は、経営者にとって厳しい。【印刷】
- 仕入単価の上昇や、電気料金等諸経費の増加が気になります。【印刷】
- 復興関連の仕事が多いが、人手不足で困っている。【窯業・土石】
- 震災需要が急激に増えて来ており、今迄縮小体制へシフトして来ていたため人員車輛とも不足、支障が出てきている。人件費や材料費、諸経費の増加により採算面で苦慮している。【窯業・土石】
- エレクトロニクス関係は3月～5月にかけて生産調整が進んでいる。特に半導体関連は先行き不透明で難解である。【窯業・土石】
- 溶接技術者が少なく、人材が不足している。【金属】
- 先行き不透明。【一般機械】
- 新年度に入り、昨年度より受注減少の傾向にあり。【一般機械】
- ユーロ不安と円高で受注が戻ってこない。【一般機械】
- 全体的に景気向上のため、求人を出しても応募がなく、人員が不足している。【電気機器】
- 円高、ユーロ不安、製造業の国内空洞化等、経営環境は、苦しくなるばかりである。中小企業の海外進出を支援するのではなく、国内の技術を守る努力をするべきではないか。【輸送用機器】
- 受注単価の悪化は、仕入（鋼材価格）の価格の下げに伴うもの。【輸送用機器】
- 先行き不透明感が変わらず。【精密機器】
- 大手の海外生産体制が一段落するまでは、受注増は期待できない。【精密機器】

- 国内でものづくりが出来なくなるのではないかとと思う。 【プラスチック】  
 ○ 昨年の震災後、受注量の激減により最悪の事態となっている。 【プラスチック】

## <建設業>

業況DI値	
今回	22.3
先行き	4.4
前回比	-20.9

対象企業	65
回答企業	45

資金繰りで横ばい、売上・採算でわずかに悪化、業況で悪化を示した。  
 業種別にみると「土木」は資金繰りでわずかに改善、業況・売上・採算で悪化を示し、「建築」は業況・売上で横ばい、採算・資金繰りでわずかに悪化を示した。  
 3か月先見通しは業況・採算・資金繰りでわずかに悪化、売上では悪化を見通している。  
 業種別では「土木」は業況・売上・採算でわずかに悪化、資金繰りで悪化を見通し、「建築」では資金繰りでわずかに悪化、業況・売上・採算で悪化を見通している。「原発事故で原材料が入荷できない」「震災による復旧需要は続いているが、厳しい査定と競争激化となっている」といった声があった。

## 自由意見

### 建設業

- 原発事故により原料入荷出来ず、在庫で乗り切っている状態で製造ができなくなっている。 【建築】  
 ○ 震災による復旧需要は続いていますが厳しい査定と競争激化となっており、本年度は厳しい見方をしております。 【建築】  
 ○ 仮設住宅から復興住宅へと来年の夏あたりからシフトするが、販売単価が安く苦心をしている。それに対応すべく対策を立てなくてはならない。今年が勝負だと考えます。 【建築】

## <卸売業>

業況DI値	
今回	-7.9
先行き	-10.5
前回比	-18.2

対象企業	114
回答企業	76

資金繰りで横ばい、業況・採算でわずかに悪化、売上では悪化を示した。  
 業種別にみると、「衣服」「青果物」「その他」は資金繰りでわずかに改善、売上ではわずかに悪化、「飲食料」は業況・売上・採算で改善、資金繰りでわずかに悪化、「鮮魚」は採算・資金繰りで改善、業況・売上ではわずかに改善、「機械器具」は資金繰りで悪化、業況・売上・採算で大幅悪化、「建築材料」は資金繰りでわずかに悪化、業況・売上・採算で悪化を示した。  
 3か月先見通しは、業況で横ばい、売上・採算・資金繰りでわずかに悪化を見通している。  
 業種別にみると、「衣服」は業況で改善、売上・採算で横ばい、資金繰りで悪化、「飲食料」「その他」は業況・売上ではわずかに悪化、採算で悪化、「青果物」「鮮魚」は売上ではわずかに改善、業況・採算で横ばい、「機械器具」は資金繰りでわずかに悪化、業況・売上・採算で悪化、「建築材料」は業況・売上・採算でわずかに改善、資金繰りでわずかに悪化を見通している。  
 「取引先の減少」「消費者は放射能を心配し、風評被害が続いている」「原発事故による風評被害で地元農産物及び県産品の取引に影響あり」という声があった。

## 自由意見

### 卸売業

- 取引先の減少 【衣服】  
 ○ 前年は震災の影響で悪化していたが、今年は通常通りに回復し良化してきている。 【飲食料】  
 ○ パート、アルバイトの働き手が少なく、人件費が上昇している。 【飲食料】  
 ○ 消費者は放射能を心配し、風評被害が続いている。 【青果物】  
 ○ 原発事故による風評被害で地元農産物及び県産品の取引に影響あり。 【青果物】  
 ○ 消費税増税や原発補償の終了は、倒産が増えるなど社会に大きな影響を与えると思う。 【青果物】  
 ○ 放射性セシウム不検出であっても消費者は買わない。 【鮮魚】  
 ○ 震災前と比較すると、大幅に悪化しています。当社は相双地区を商圏にしておりましたが、原発事故による避難で、この部分を失ってしまいました。 【鮮魚】  
 ○ 放射能の影響で、売上は下がり気味。 【鮮魚】  
 ○ エコカー補助金の終了と復興需要の影響が低下し、下押し要因となる見込み。 【機械器具】  
 ○ 23年度予定の分が震災の影響で、ズレ込んで発注があったため業績は上ったが、今後は円高不況の回復が見込めず、悪化の見込みです。 【機械器具】  
 ○ 相双地区での人材不足(社員、業者)が懸念されます。本来の復興需要は、まだ先でしょうか？期待したいものです。 【建築材料】  
 ○ 前期はリフォーム等資材(屋根瓦、内部クロス、外壁の割れ、家の沈下)に追われたが、今年は新築の資材が出荷はじめている。 【建築材料】  
 ○ 全体的に受注減少。 【その他】  
 ○ 放射能による農業への影響が、今後も悪い方へ行きそうなので心配しています。 【その他】  
 ○ 相変わらず風評被害が多く、客足はまばらです。 【中小スーパー】

## <小売業>

業況DI値	
今回	-7.0
先行き	-24.4
前回比	-20.3

対象企業	140
回答企業	86

採算・資金繰りでわずかに悪化、業況・売上で悪化を示した。  
業種別にみると「飲食料」「その他」は業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化、「中小スーパー」は資金繰りで改善、売上・採算でわずかに改善、業況で悪化、「衣料」は採算・資金繰りでわずかに改善、業況でわずかに悪化、売上で悪化、「家電品」は業況・売上でわずかに悪化、採算・資金繰りで悪化、「自動車販売」は業況でわずかに改善、売上・採算・資金繰りでわずかに悪化、「家具・建具」「大規模店」は資金繰りで横ばい、業況で悪化を示している。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰り全てでわずかに悪化見通している。  
業種別にみると「飲食料」は業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに改善、一方、「中小スーパー」は業況で横ばい、売上・採算でわずかに悪化、資金繰りで悪化、「衣料」は売上・資金繰りで横ばい、業況・採算でわずかに悪化、「家電品」は資金繰りで横ばい、採算でわずかに悪化、業況・売上で悪化、「自動車販売」は業況で大幅悪化、売上・採算で悪化、資金繰りでわずかに悪化、「家具・建具」「大規模店」では業況・資金繰りで横ばいを見通している。

「相変わらず風評被害が多く、客足はまばら」「先が見えないので不安」という声がある反面、「昨年落ち込んだ売上が、元に回復しつつある」といった声もあった。

## 自由意見

### 小売業

- 原発事故の風評被害により、経済状況がさらに悪化し、地域の消費者の節約志向が高まり、益々買い控えの風潮が高まっている。 【衣料】
- 放射能の影響は未だに大きく、販売に大きな影を落とす。 【衣料】
- 昨年落ち込んだ売上が、元に回復しつつあります。 【衣料】
- 5月の店内改装、9周年創業祭のために、若干、上向きのきざしあり。 【飲食料】
- 量販店の単価低下及び、オリジナル品の低価格が多くなり、メーカー品の価格が安定しない様です。 【飲食料】
- 天候不順、仕入単価上昇、放射能被害、魚貝類の不足(地元産)で売上が悪化している。 【飲食料】
- 思ったよりも売上、採算共に良い方向にあるが、代金回収が思わしくない傾向にある。 【家電品】
- 経済的に余裕の有る人、無い人の差が、より目立つ。 【家電品】
- 受注減少に競争激化と業況は非常に厳しいが、少ないながらも顧客の要望に応えるため、毎日営業している。 【家電品】
- 来店客がなく、売上が全くない。 【家電品】
- エコカー補助金終了後の対策。 【自動車販売】
- いわきの場合、震災特需の感があるが、今後は、予断を許さない状況です。 【自動車販売】
- 震災と原発事故等に対する支援金や優遇措置の影響で現在は業況は良いが、ここ2、3年だけであり、その後は再び急激に悪化するのではないかとと思われる。 【家具・建具】
- 原発事故による避難の方で来客数が増え、売上も少しずつ増加している。 【その他】
- 特に大きな変化は感じません。 【その他】
- 昨年と比較すると、放射能の影響で、販売エリアの「農地」と顧客の「農家」が徐々に減少しているので、厳しくなっている。 【その他】
- 仕入単価の上昇、販売単価の低下により収益力が低下。 【その他】

## <サービス業>

業況DI値	
今回	-10.0
先行き	-25.0
前回比	-24.3

対象企業	103
回答企業	60

売上・採算でわずかに悪化、業況・資金繰りで悪化を示した。  
業種別にみると「運送」は売上でわずかに改善、業況で横ばい、採算でわずかに悪化、資金繰りで悪化、「観光旅館」は業況・売上・採算・資金繰り全てで悪化、「タクシー」は業況・売上・採算で悪化、資金繰りで横ばい、「自動車整備」は採算・資金繰りで横ばい、売上でわずかに悪化、業況で悪化、「情報サービス」は売上で横ばい、業況・採算・資金繰りで悪化を示した。

3か月先見通しは業況・採算・資金繰りでわずかに悪化、売上で悪化を見通している。

業種別にみると「観光旅館」は資金繰りでわずかに改善、採算で横ばい、業況・売上でわずかに悪化を見通し、「タクシー」は業況・売上でわずかに改善、採算・資金繰りでわずかに悪化、「運送」は採算で横ばい、資金繰りでわずかに悪化、業況で悪化、売上で大幅悪化、「自動車整備」は業況・資金繰りでわずかに悪化、売上・採算で悪化、「情報サービス」は資金繰りでわずかに悪化、業況・採算で悪化、売上で大幅悪化、「その他」は採算でわずかに悪化、業況・売上・資金繰りで悪化を見通している。

「若い従業員が福島の地を離れ、人員不足となっている」「軽油単価が高止まりで、原価率を引き上げているので、もう少し下がれば収益が良くなると思う」といった声があった。

## 自由意見

### サービス業

- 原発事故後、客層が大きく変化し、どのように集客するか商品内容等の見直しが問題。 【旅館・ホテル】
- 軽油単価が高止まりで、原価率を引き上げているので、もう少し下がれば収益が良くなると思う。 【運送】

- |  |          |
|--|----------|
| ○ 風評被害は、まだまだ続いていて、農産物の輸送量は減少している。軽油の値段は6月に入って下落傾向にあるが、採算がとれない。 | 【運送】     |
| ○ 軽油が若干値下がりがりし、業況は良化している。                                      | 【運送】     |
| ○ 先が見えないので不安です。  | 【自動車整備】  |
| ○ 福島県内に補助金は流れているが、良くなってきているという実感が乏しい。                          | 【情報サービス】 |
| ○ 理不尽な要求は断ることになっているが、取引先からの値引き要求、支払い先延ばしの要請がある。                | 【情報サービス】 |
| ○ 若い従業員が福島の地を離れ、人員不足となっている。                                    | 【情報サービス】 |
| ○ 昨年増員した1名分の仕事の確保が出来ない状況にある。観光客が災害以前に戻りきっていない影響が徐々に出ている。       | 【その他】    |
| ○ 放射能汚染により、除染以外の廃棄物回収でも仮置き場がなく困っている。                           | 【その他】    |
| ○ 避難者による人口増と営業努力で売上が増加したと思われる。                                 | 【その他】    |